

韓国から2人招いて「朝鮮半島と東川の歴史を語る会」

8月28日、農村環境改善センターで「朝鮮半島と東川の歴史を語る会」が開かれました。

「朝鮮半島と東川の歴史を語る会」(近藤伸生代表)が主催。約200人が来場しました。

戦時中、東川町で強制労働させられていたという2人の韓国人お年寄りとその家族を招きました。

朴時永(パク・シヨン)さん(91)と朴仁植さん(パク・インシク)さん(90)の妻、イ・マニさん、そしてその家族7人です。韓国政府強制動員被害調査委員会の2人が通訳とこれまで韓国政府が行った調査結果を報告しました。

シヨンさんは「『ハンバ(飯場)』というところで、真ん中にストーブがあつて、みんな足をストーブに向けてぐるっと囲むように寝ていた。足が痛くて休んでいる時はごはんが出ず、水のようなおおかゆが出た」などと思い出



当時を語るパク・シヨンさん(手前右はパク・インスクさんの妻イ・マニさん)

を語りました。

パク・インシクさんは体調が悪く、妻のイ・マニさんから家族3人が来日しました。

「夫は『招待してくれて感謝している。もう少し早く呼んでくれたら来ることができた』と話していた。来る日の前日は『このような形で呼ばれたことで胸にあつた恨みのようなものが少し晴れたような気がする』と涙を流していた」などと紹介しました。

場内じっぴい笑顔、絵本作家の読み聞かせライブ

絵本作家、長谷川義史さん(大阪在住)の読み聞かせライブ講演が9月17日、農村環境改善センターで開かれました。



代表作「いいからいいから」は、どんなことも気にしないで「いいから、いいから」と何でも許してしまうおじいさんのお話で人気。自ら筆を持って絵を描きながらお話を進めると、子どもたちは身を乗り出して笑い、目を輝かせて聞き入りました。

町内の「おはなしの会ピッピ」会員のお母さんたちが中心になって実行委員会を作り、初めて実現しました。会場は小学校低学年までの親子でいっぱい。ひょうきんな山高帽子に丸ぶち眼鏡が特徴的ないでたちで登場し、自著の絵本のお話を次々に読み聞かせました。現在シリーズ4作目を執筆中という

会場のお母さんたちも、語り口の面白さに思わず大きな笑い声の合唱。ウクレレを弾きながら会場みんなで一緒に歌って楽しい絵本ライブを満喫しました。

家畜感謝の碑で1年間の感謝

8月30日、忠別公園の家畜感謝の碑(南町2丁目)で家畜感謝祭を行いました。

東川町畜産振興協議会(会長・板谷重徳東川町農協組合長)が主催し、町内の農業関係者、団体から約20人が出席しました。

かつて町の農業発展を支えてきたが、現在の町内畜産、養鶏農家は3戸。そのうち2戸が出席して感謝を込めました。

